

生活雑貨における食器の選び方とその利用方法

—女子高校生・女子短大生の場合—

神戸女大瀬戸短大 ○岸本祥子 内海理恵

目的 食生活にはインテリアやその場の雰囲気などの食以外の要因も、よりおいしく・楽しく食べるためには不可欠である。80年代初めに起こった雑貨ブームが定着し、身近にある生活雑貨に対してこだわりをもつ人が増加し、自分自身が使いやすいもの、使っていて気持ちのいいものを選んでいく。また、食器においては料理を盛るだけでなく、花を生けるなどのインテリア雑貨としての使用もされている。そこで本研究では、生活の中における食器の役割を考えるにあたり、流行に最も敏感である若い女性の雑貨屋での食器購入におけるポイントおよびインテリア雑貨としての利用状況の調査を行った。

方法 対象は岡山県・広島県在住の15～20歳の女子高生・女子短大生 203名。アンケートに実際に食器を見て回答させ（グラス、小鉢、サラダプレートの3項目中に項目ごとに4種の異なる器を置く）、各項目および食器の特徴について考えた（有効回収率 90.1%）。

結果 ①食器3項目間に、食器としての選択要因の有意差がみられ（ $P<0.01$ ）、グラスは使いやすさやデザイン全体、小鉢はいろんな料理に合い幅広く使えること、サラダプレートはかわいくおしゃれな感じでどんな料理にも合うことがあげられた。②食器としての選択とインテリア雑貨としての選択には有意差がみられた（ $P<0.01$ ）。③インテリア雑貨として実際に3割が使用し、9割は使用に賛成で、アイデアとしてはグラスを一輪挿しやポプリ入れやペンスタンドにする、小鉢では植物の鉢の受け皿やアクセサリー入れにする、サラダプレートはそのまま飾る、無地ならペイントするなどの工夫があげられた。